

俳句

夏のれん川風吹ける蕎麦処

綿引 英子

薄紫母の形見の薄衣

今瀬 多代美

空と森飛ぶ如く置き金魚鉢

中野 千賀子

水に浸ければぶくぶくと胡瓜苗

飯田 勇一

ご自由にマスク型紙麦の秋

竹内 幸子

老松のつんつん元氣緑摘む

田口 勝元

文芸しろさと

短歌

香き日の哀しみひとつわが裡に
癒えることなく老いに至りぬ

山形 式妙

下手でようまく出来ればなをに
よし老いてのスポーツ遊技いそむ

杉山 みちこ

のびやかに野を広々と風よぎる

大森 久子

田の面を泳ぐかるがもつがい

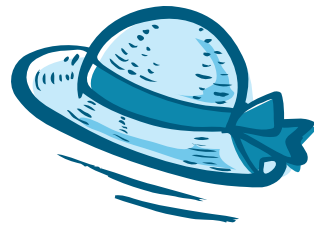
大森 久子

いち日を励まし合いて生きてを

佐川 あや

廃業の店頭に空のつばめの巣

寺門 孝子



川柳

家内には言えない楽しい夢を見た

富田 多蔵

梅雨の花賑わい増えて誇らしげ

車田 綾子

「はがぬけて泣いて頑張る草刈機

飯村 孝一



幼な日の思ひ出なつかし日立市
にて下校後友と海で泳ぎし

所 美恵子

夕されば白あぢさるの花群
に闇は灰かに暮れ泥みゐて

渡辺 千紗子

幼き日ホタルブクロを探した

島 愛子

初めての海外旅行の夢破れ

信田 育子

憎きコロナよわたしの米寿

富田 佐智子

夫が初めて今日掘りくられし

萩谷 登喜子

逞しく生きたる亡姉の新盆

萩谷 登喜子



亡夫の分身なのか玄関に螢
飛び来て強く光りぬ

光部 光子

人生は誰もがいつかめぐり
くるこの世の別れ九十四歳

富田 欽子

新議会希望ゆたかなふるさと

矢次 洋平

しろさとまち通信

—城里町地域おこし協力隊— Vol.52

城里町地域おこし協力隊の連載、8月号は
田村芽子が担当します！



▲箱わなの設置の指導を受けている様子

こんにちは、有害鳥獣分野で活動している田村です。私は活動を通して、鳥獣被害についてさまざまなことを学びました。今回は猪被害について、少しイメージが変わるようなお話をしたいと思います。

近年は猪による農作物被害が深刻化しており、「昔は猪が少なく、被害も無かったのになぜ最近はいっぱいいるの？」と疑問に感じている方も多いのではないのでしょうか？

鳥獣被害はここ数十年の問題だと思われがちですが、実は、「農業の歴史は獣害の歴史」ともいわれるほど、古くから人々の頭を悩ませてきました。

猪は約六十年〜百年の周期で増減を繰り返しており、過去にも猪がたくさん生息していた時代がありました。作物の取れ高が少ない時代では、獣害はまさに死活問題。江

戸時代には約三千人もの人が亡くなった「猪飢饉」の記録も残されています。そのため、当時の人々もあらゆる対策を講じ、猪と戦ってきました。深夜の見回りや警戒発砲、猪垣の建設、地域総出の駆逐作戦など、その労力と費用は今以上に上だったといわれています。

そして、昭和に入るとたくさんいた猪は疫病等で激減、農作物被害も減りました。そこからまた増え続け、現在の被害に至ります。

歴史を鑑みると、猪被害は一過性のものではなく、猪の増減と共に繰り返されるものだといえます。そして今、猪は増加の時期。町でも捕獲に力を入れておりますが、皆さんにも根気よく対策を続けていただくと嬉しいですね。私もお役に立てるよう、対策の知識を身につけていきます。

問合せ

農業政策課

☎029-288-3111 (内線253)